

文 化

約四万三千人の犠牲者を出したイランの大地震から、二十六日でまる一年になる。この地震で、巨大な日干しレンガづくりのバム遺跡(アルゲ・バム)が崩壊し、三十年余り進められてきた遺跡修復の成果も失われた。現地で修復活動に参加したことがある私は、昨春から滞在する留学先の日本でこの悲報に接した。

起原は二千五百年前バム遺跡は首都テヘランから南東に約千キロ以上

も離れたケルマン州にある。砂漠の中のアシスに日干しレンガでつくられて現存する最大級の城塞都市で、起原は約二千五百年前のアケメネス朝ペルシャ時代にさかのぼり、七～八世紀にはシルクロードの要衝として栄えた。十八万平方メートルに及ぶ遺跡全体が日干しレンガづくりで、城壁や城門、

政庁、塔、堀のほか、モスク、学校、住居、兵舎、馬小屋などイランのさま

ざまな歴史建造物が集まった遺跡だ。テヘラン育ちの私は大

学で建築学を学んでいた一九九三年に初めて大学の友人と見学に訪れ、雄大な建物の配置や積みあ

げたレンガの美しさに魅了された。中でも三つの建物群からなるアメリカ・アルシャムという広さ三千平方メートルほどの建造物に魅力を感じた。十九世紀にナツメヤシの庭園に移

上の作業員と働いた。その後、恩師でパリ建築大学教授のル・ビーグ国立情報学研究所(NII)の小野欽司教授のもとに来て、シルクロード文化遺産のアーカイブづくりに参加している。ラクダなどを伴い砂漠を旅したかつての隊商の宿「キャラバンサライ」の研究で、コンピューターを使った調査データの活

用の研究者とホームペー

ジづくりを始めた。三日間で完成させ、日本語のほか英語、ペルシャ語で復興支援を呼びかけた。バム遺跡で働いていた時の同僚にも電子メールで連絡をとった。返事をくれた人の無事を確認できずうれしかった。一方で先輩建築家ら多くの仲間

バム遺跡3Dで蘇れ

◇大地震で崩壊したイラン城塞都市の画像収集◇

エルハム・アングルーディ

され、イランの典型的建築様式を残していた。

伝統的建築の修復に汗

文化遺産観光庁(現

建物宿泊機能と文化財

の共存する旅行者向け施設に修築することを決定。その職員だった私は、

二〇〇二年七月から翌年三月まで、建築担当者兼修復監督として五十人以上



用法を学ぶためだ。修復現場を離れて九カ

月ほどで、バム遺跡は大

地震に遭い七〇%が崩壊

し、私手がけてきたアメリカ・アルシャムも壊滅的な被害を受けた。

地震直後に、私はNII

の研究者とホームペー

ジづくりを始めた。三日間で完成させ、日本語のほか英語、ペルシャ語で復興支援を呼びかけた。バム遺跡で働いていた時の同僚にも電子メールで連絡をとった。返事をくれた人の無事を確認できずうれしかった。一方で先輩建築家ら多くの仲間

を助けてくれたのはフレデリック・アンドレス助教授ら多くの教員や研究者、友人らだった。「バムの再建を支援する会」を設立して、集会を開いてくれた。

地震の三カ月後に現地を訪れた。にぎわいは消え、家を失った人々の住むテントと数多くの墓石だけが並んでいた。遺跡は大半が倒壊し、道は土で埋まっていた。多くの専門家の意見では、修復の道は険しいという。

しかし、このまま放置しておくわけにはいかない。バム遺跡は、単に遺跡というだけでなく、観光地として住民らの生活の糧であり、イラン人の誇りでもあるのだ。

ネットでも協力呼びかけ 私は地震前の写真や映像を集めることが復興につながることを考えた。日本情報技術を使えば、復元の前に、バムの全容を3D(三次元)のCG(コンピュータグラフィックス)映像で蘇らせることができるはずだ。

私を支えてくれたのはフレデリック・アンドレス助教授ら多くの教員や研究者、友人らだった。「バムの再建を支援する会」を設立して、集会を開いてくれた。

地震の三カ月後に現地を訪れた。にぎわいは消え、家を失った人々の住むテントと数多くの墓石だけが並んでいた。遺跡は大半が倒壊し、道は土で埋まっていた。多くの専門家の意見では、修復の道は険しいという。

しかし、このまま放置しておくわけにはいかない。バム遺跡は、単に遺跡というだけでなく、観光地として住民らの生活の糧であり、イラン人の誇りでもあるのだ。

ネットでも協力呼びかけ 私は地震前の写真や映像を集めることが復興につながることを考えた。日本情報技術を使えば、復元の前に、バムの全容を3D(三次元)のCG(コンピュータグラフィックス)映像で蘇らせることができるはずだ。

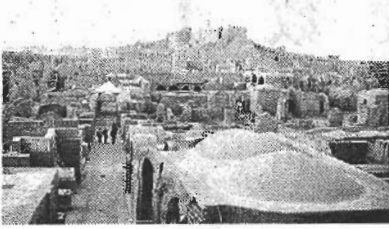
ホームページのほか、口コミやテレビ番組を通じて協力を呼びかけた。ある画家は十数年前に現地を訪れて撮影した数枚の写真を提供してくれ、フランスやチェコからも写真・映像が届いた。NHKも二十三年前に番組「シルクロード」の取材で撮影した空撮映像などを提供してくれた。

だが、巨大な遺跡復元のためには、まだまだ写真などのデータが足りない。今夏、ユネスコの世界遺産に崩壊の恐れがある危険遺産として登録された。これを弾みに、さらに協力を募りたい。

地震から一周年の今月二十六日、バム市では追悼式典が開かれる。私はあさって二十三日、日本を発ち、まずはデジタル技術を使った修復を進めることを「く」な仲間たちに誓ってきた。

日本の方は我々と同じように地震に悩まされている。私たちの思いを多くのの人々と分かち合いたい。(国立情報学研究所 総研大学院生)

だが、巨大な遺跡復元のためには、まだまだ写真などのデータが足りない。今夏、ユネスコの世界遺産に崩壊の恐れがある危険遺産として登録された。これを弾みに、さらに協力を募りたい。



震災前(写真上)と震災後(同下、今年3月)のバム遺跡。いずれも筆者写す

震災前(写真上)と震災後(同下、今年3月)のバム遺跡。いずれも筆者写す